

熊本県阿蘇地域における国立公園環境学習の実施と結果の検証 市川 実柁[東京農業大学]

阿蘇くじゅう国立公園阿蘇地域は、広大な草原景観が評価され、1934年に国立公園に指定された。2013年には、伝統的な草原利用や農業、文化的暮らしが評価され、世界農業遺産に認定されている。しかし、畜産農家の減少や地域住民の高齢化による担い手不足により、草原の維持管理が課題となっている。また、地域の子ども達が草原へ行き、遊ぶという機会も少なくなっており、子ども達が国立公園や世界農業遺産、ジオパーク等の保護制度により保全されている地域資源を理解する機会は数少ない。

そんな中、2016年4月14日におきた九州大震災は熊本県益城町、南阿蘇村を中心に甚大な被害を与えた。今後、阿蘇地域における熊本地震復興に向け、地域の未来の担い手となる子ども達への教育は、復興への大きな中核となりえる。

そこで、本研究では、阿蘇地域の資源を理解し、復興を乗り越え、地域への誇りを育むレクリエーションを取り入れた教育プログラムを開発した。

具体的には、阿蘇地域の小中学生を対象に、クイズ形式で子ども達が楽しみながら、阿蘇地域の価値を発見するプログラムとした。プログラム実施後は、教員を対象にアンケート調査を実施し、その教育効果を検証した。

「阿蘇の野の花」の観光資源的価値と観光プランに関する研究 原 智美(東京農業大学)

本研究は、熊本県阿蘇地域の草原に生息する希少種である「阿蘇の野の花」を対象とし、野の花を阿蘇ならではの観光対象として確立、同時に保全するための観光プランを立案するため、野の花の観光資源的価値を明らかにすることを目的とした。

また、最終的には参加者が阿蘇の自然を楽しむだけでなく、阿蘇の自然や環境の保全の大切さを学ぶと同時に、震災復興に結びつくようなモデルプログラムを作成した。

調査方法は、①エコツーリズム資源の把握では、文献調査、WEB調査、ヒアリング調査を行い、観光対象として活用可能と思われる阿蘇ならではの野の花資源を抽出し、資源リストと資源マップを作成した。②既存プログラムの把握では、文献調査、WEB調査を行い、現在阿蘇地域で提供されている野の花に関するエコツアーのプログラム集を作成した。③被災状況の把握では、現地ヒアリング調査を行い、阿蘇の野の花に関する施設の被災状況をまとめた。④モデルプログラム案の作成では、コース設定やモデルプログラム内容とそれらのプログラムを実現するにあたってのルールを検討した。

本研究によって、今後阿蘇の野の花を観光対象として利用する際の基礎資料となり得る。